

WORKS

Empower&Energize

No109
2007/11

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

生産消費活動という 視点

名東福祉会理事長 加藤久和

未来学者のアルビン・トフラーは生産消費者という概念を提示しました。生産消費者とは「自ら生産し、自ら消費する消費者」のことです。いたるところで、「生産消費者」は増え、自ら富を形成しているとトフラーは説きます。

- ・自分で家を直したり造ったりする日曜大工
- ・自分で支払うセルフレジ
- ・デジカメ
- ・自宅のできる健康検査器具
- ・利用者が自ら編集し加筆するインターネットのウィキペディア
- ・読者が書き込みができるブログなどなど。

障害者施設の利用者やその家族、職員は以前から「生産消費者」であったという面があります。施設では「自分たちの生活の質を上げるために自分たちが手づくりで生活を作り上げる」という側面があります。貧乏だからそうせざるを得なかったという側面もあり

ますが・・・。
障害者施設の場合、生産消費活動の多くの部分を職員や家族やボランティアが行うことになりませんが、利用者自身もそうした活動に参加することができます。

例えば、施設のバザーにおいては、バザーで販売する用品をつくる人も、それを購入して消費する人も施設関係者であることが多く見受けられます。バザーの目的としては施設運営費を獲得するためという大義名分はあるのですが、生産者と消費者が同じであり、金銭的な尺度から見ると目的とは裏腹に、たいへん小さい金額しか動きません。でも、バザーに生産性がないかというところでありません。むしろ、地域の人々や家族同士の絆を深め、施設の生活を豊かにするという付加価値があります。生産消費活動という側面からバザーを見れば、実際の金銭活動の数十倍の経済活動が行われているといえます。

トフラーは今後、世界の生産消費活動が拡大し、通常の貨幣経済を押し上げていくと見えています。障害者福祉に関する財源が厳しいといわれていますが、施設における生産消費活動は知的障害者福祉がおかれている状況の突破口になると思います。これまでに蓄積されたノウハウにより、授産施設や福

祉施設には豊富に生産消費活動を行うツールが存在しているからです。陶芸、木工、農作業、園芸、日曜大工、製パン、製菓、縫製、給食作りIT技術・・・
名東福祉会では今後、お米すら自分たちでこしひかりやはつしもなどのブランド米を農家から直接手に入れ、精米してつきたてを食べることができず。ありとあらゆる楽しい生産消費の機会が施設には存在しています。生産消費活動を続けた白鳩会では自前の農園から年間2億円を超える収益を上げていますが、実際にはそれを遙かに上回る生産消費活動を鹿児島全体で展開されています。

今後、団塊の世代の労働力がボラティアとして大量に施設に流入し、いっしょに生産消費活動が展開されれば、施設利用者の生活は金銭によらなくても飛躍的に豊かになるはずです。施設が閉じた消費活動を行うだけでは、今の財源ではたいへん貧しい生活しか手に入れることができません。でも生産消費活動があれば別です。授産施設に対して貨幣経済的な側面からのみの評価で施設を断罪し、施設不要論を展開する知識人を私は信じません。
ですが、社会の流れは授産施設不要論に向かっているように見えます。ここ数年、授産施設についての批判は激しいものがありました。知的障害者の

作業所が、最低賃金法に違反しているなどとして、管轄の労働基準監督署から改善指導が行われた事例もあります。授産施設にはたいへん多くの支援費が入っているのに、障害者の工賃は数万円で極めて低いというものです。

こうした議論が続いていると、次第に施設が諸悪の根源のような話になっていき、最終的には施設不要論までいきます。昨今の「障害者自立支援法」における就労支援とか、地域生活移行支援という概念は障害がある人たちは施設を利用すべきではないというメッセージを持っている気がします。でも、この議論、何かおかしいと思うのは私だけではないはずで、私がかここで述べたい生産消費活動のポイントは3つです。

- 1 貨幣経済では測ることができない価値が社会には存在している
- 2 社会全体がそうした生産消費活動を増大させている
- 3 施設支援の評価尺度が社会の価値観とずれはじめている

せっかくの得意技であるところの生産消費活動が過小評価されていていなかという事です。生産消費という尺度で施設を計り直すと、施設は社会資源として極めて有用な価値を持って

いると思います。まだ私たちはその価値をうまく引き出せていないのではないかと。

自らが生産し、自らが消費する生活すなわち生産消費には「本人が自分で自分の人生を決定している生活」というニュアンスが内包されています。ステレオタイプに本人の意志をさしおいて「障害があっても企業で働くべき」とか、「この障害程度区分ならば施設で生活すべき」であるとか他人が決めるのはおかしい。それぞれの人には生活のスタイルとか自己負担の額とか、支援者の希望とかいろいろの要件があり、そういうものを総合的に加味して最終的に本人が決めるべきです。他人が押しつけた人生に幸せはありません。自己決定の支援が基本中の基本です。

〇〇をするために働くのではなく、〇〇という活動そのものが楽しいからそうしている・・・すなわち、正の強化で維持される行動で埋め尽くされた生活こそ質の高い生活です。施設の価値は正の強化で維持される行動が多いか少ないかで問われるべきでしょう。未来学者トフラーが提唱した生産消費に関するニーズは近未来においてさらに拡大していきます。私たちは改めて障害者施設の役割について問い直さなければならぬように思います。

奈々枝日記

合同家族会役員会のあと、知的障害者通所授産施設TUTTI（定員40名）へ見学に行かせていただきました。参加者は家族会役員の皆様。

8年前より名古屋市長東区に小規模授産施設として開設されて以来のおつきあいです。私は当時、メイトウ・ワークスの所長でした。通所授産施設の竣工式に参加させていただき、ほんとうに立派な施設が開所されたことを共に喜んでいました。

今日はTUTTI開所3年目に入っで立派に運営されているのを見学させていただきました。とても嬉しく思いました。障害者自立支援法実施による厳しい施設運営の中、地域貢献を柱に

- ・新規事業のレストラン
- ・地元野菜、米などの店頭販売
- ・生協のリサイクル作業
- ・軽作業
- ・配食サービス
- ・リサイクル自転車自主事業

このほか3階の一部に和室が2部屋あって、地域の障害者のために泊まり会を月1回、NPO法人と提携してやっているそうです。いろいろこなされている活動的な通所施設に感嘆の思いひとしおでした。

TUTTI（トゥッティ）とはイタリア語の「協奏曲」が転じて、「皆さんと一緒に」という意味だそうです。障害のある人もない人も、地域で一緒に暮らすことを願ってつけられたとのこと。また、施設のモットーは「生きる、働く、楽しく暮らす」。利用者の皆さんの生き生きと楽しそうな姿を見て、実感することができました。

私たちはレストランで「鮭の定食」をいただき、同じ食堂でモクモクと食べておられる利用者さんと地域のお客さん一組も交えて、おいしくいただきました。食器を下げる時にも丁寧に運んでいただきました。食事が終わってコーヒーを注文すると「コーヒー5つに紅茶1つですね」と復唱して丁寧に運んでこられました。注文しなかった人にはお茶が出ました。お母さんたちの中には「うちもダウン症だけれどあれだけのことはやれん」とため息をついておられました。所長さんは「繰り返しやっているうちに覚えたのですよ。特に指導はしていませんが、親さんと一緒に行ったレストランであやるといいなと思ったのではないですか」と言われました。毎日の積み重ねの重要さをつくづくと感じました。三階の屋上にはハーブも作られており、7種類を三日間コトコトと煮込んで

だカレーもあるそうで、この次はそれを頂きにまた来ようかなと思いましたが。

2007年10月12日

小島一郎の生活支援センター日記

先日、なんと東京のホテルオークラへ。支援Cで苦勞を共にしてきたOさんの結婚式のためである。朝、名古屋から新幹線に乗り、品川下車。山手線で新橋、東京メトロ銀座線で虎ノ門、そして徒歩10分ほどである。新橋駅では、さんまのからくりテレビで、酔っ払ったおじさんたちが登場するのと同じく同じ景色であることに感動し、虎ノ門病院の前を通り過ぎるときは、よく分からないけど聞いたことがあるだけで感動し、肝心のホテルオークラに入るときには、「そう言えば、自民

党の総裁選の前夜に麻生太郎が派閥集めてたっけ」と半ば無理矢理、付加価値を付けて感動した。ちなみに、ホテルにさしかかったときには式の25分前で、10分前には式場前になきやいけないことで慌てていた。お陰で、最初は従業員入り口のようなところに迷い込んで妙な目で見られ、次には宴

会場入り口を前にして観念して入った。正面玄関一步手前の出来事である。何とも淋しいオークラデビューとなった。それでも、式の15分前に到着できたことで御の字なのであるが。

早めに到着していた、同じく支援CのYさんと合流。少し雑談していたら、ついさっきまで賑わっていた廊下が静まり返っている。置いて行かれた？と不安になり、角にちよこんと立っている方をホテルマンと思ひ込み、尋ねてみるが無視。気まずい思いでクロークのおばちゃんに聞きなおして、無事式場控え室へと合流した。ホテルマンと間違えた恰幅のよいおじ様が、まさか東京都のかなりお偉い方で、その後の式、披露宴と行動を共にしなければならなくなるとは、このときは知る由もなかった。

肝心の式や披露宴の方であるが、式はさすがに本物の(?)牧師さんが正式な手順で厳かに、でも温かく、という感じ。あまりに新婦のOさんが神妙な顔をしているので、退場するとき目配せしたら噴出していた。立派な上司であるから、披露宴でのスピーチは真面目に行った(当たり前だが)。新郎が医学生理学系の研究者である関係で、新郎側のスピーチはさながら学

会か大学の講義かという趣(失礼)であつたので、私の福祉チックな祝辞は、特に新婦のお母さんのご友人方から大層誉められた。

あまりふざけていると、Oさんからお叱りを受けるので最後に少し真面目に書くと、新郎新婦お二人の人柄そのままの、温かく、洗練された宴であつた。新郎がウエルカムスピーチの際、言葉に詰まる度、またトランプットを吹く際、音が空振りする度、心配そうに、でも少し嬉しそうにチラチラ目をやるOさんがとても印象的であつた。

実は、同じ日にタレントの神田うのも披露宴を行っていたのであるが、Yさんの家族はホテルオークラとオークラを間違えて騒ぎ、ウチのカミさんもとり違えて、スピーチに間に合うようにとメールしようとして、直前に違うホテルであることに気付いて止めたそうである。

名東区支援C3人にとって、それぞれの立場で、慌しくも、楽しい1日となった。改めて、Oさん、お幸せに。Yさんのときも、こうやってブログで報告してあげよう。お楽しみに。

2007年10月10日

高齢十障害=忙しい！

今年度に入り、やたら介護保険利用者への上乗せのための認定調査が多いと思っていたら、知らないうちに基準が変わっていた。恥ずかしながら、夏頃気づいた。

介護保険は、いい意味でも悪い意味でもきっちりしている。要介護認定に依じて利用可能な単位数が決まる訳だが、福祉用具や訪問看護やらで食われてしまい、介護度の高い方でもヘルパー利用に回せる単位数はかなり限られてしまう。そんな中で、65歳以上の要介護者で障害者手帳もっているのと、障害福祉サービスで不足する支援を補うことができるようになっていく。ただ、確か昨年度までは全身性の身体障害をもった方でないと、上乗せ対象とならなかったはずだが、いつの間にか、この基準が撤廃され、手帳さえ持っていれば可能となったらしい。サービス利用抑制ともとれるような空気が流れ続ける中でこの緩和措置に、どういうきっかけがあつたのかは分からないが、「そりゃあ、みんな利用申請するわな」と納得した次第である。素直に受け取れば、いかに大変かが理解され、制度的な対応が行われたということか。

高齢で重度の身体障害を抱える夫を、自身も通院しながら介護する妻といった光景は、もうこの国では珍しい

ものではない。そのうち奥さんの方も体調を崩して入院して、ご主人の介護をする人がいなくなって、娘も気にはかけながらも仕事や自分の家庭のことで手一杯で、「早く認定調査して下さい」と催促のお電話をいただいて、こちらは「すいません」「急ぎます」と電話口で頭を下げながら、予定表とにらめっこ、そんな状況である。

それに認定調査は聞き取り後の調査票作成が、これまた大変で、結構時間を取られる。聞き取りを終えても調査票作成まですぐには手が回らず、積み上がっていく聞き取り済み書類を、まるで夏休みの宿題を溜め込んだ子どものように、自虐的に微笑んで横目で見ている次第である。

話は変わるが、このブログも1年が経ち、身近な方々からも「ブログ読んでます」などと声をかけられるようになった。読まれるために書いているのだから当然なのだが、当人は結構恥ずかしいものである。

2007年10月5日

ご寄付ありがとうございます

安達恭平様
有賀紀十様
石村博様
片野篤子様
川口功様
高坂義明様
佐知輝敏様
鈴木卓孝様

鈴木正徳様
高橋未見様
田中明日香様
谷本幾史様
時津忠義様
中井昌也様
永宮賢治様
長谷川聡様

平松光男様
牧野有里子様
待鳥照雄様
松下秀一様
水谷義孝様
村山光子様
山田辰巳様
レジデンス日進家族会様

この場を借りて篤く御礼申し上げます。

名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>

●社会福祉法人 名東福祉会

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4

TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●メイトウ・ワークス

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊 2-1303

TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

●天白ワークス

〒468-0023 名古屋市天白区御前場町 327

TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

●デイケア はまなす

〒465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911

TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

●レジデンス日進・ハートフルアクト日進

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4

TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●こいけホーム

〒465-0047 名古屋市名東区小池町 468-1

TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385

●天白ホーム

〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越 141-3

TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578

●児童行動療育センター「たけのこの家」

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山 14 番3

TEL 052-800-2203 FAX 052-880-2204

●メイ・グリーン

〒470-0124 日進市浅田町平池 112-3